第５章　環境を想い行動する人づくり

第１節　学校における環境教育の促進

１　学校における環境教育・学習

（１）里山里海湖学校教育プログラム集【自然環境課】

里山里海湖について、小中学校教員が児童生徒を指導するためのプログラムを、現場の先生方の意見を踏まえながら作成しました。

表5-1-1　これまでに作成したプログラム

	プログラム名
25年度	道徳読み物資料 •「じいちゃんからの宿題」 •「世界の標準時計となった『水月湖の年縞』」
26年度	三方五湖周辺体験プログラム
27年度	北潟湖周辺体験プログラム 六呂師高原周辺体験プログラム
28年度	丹南地域周辺体験プログラム

平成26年度から作成している体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、全ての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

さらに、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。

里山里海湖学校教育プログラム集

表5-1-2　平成29年度にプログラムを体験した学校数・人数
（平成29年2月末現在）

	学校数	児童・生徒数
三方五湖	26校	1,083名
北 潟 湖	4校	201名
六 呂 師	21校	1,773名
丹　　南	64校	3,200名
合　計	115校	6,257名

（２）「残そう・伝えよう!」身近な生きもの調査【自然環境課】

地域と小学校、里山里海湖研究所が共動し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うために、子どもたちが継続的に学校周辺の身近な生きものの調査・保全活動を行う「残そう・伝えよう!」身近な生きもの調査事業を実施しています。

平成27年度には、県内７つのブロック（福井・吉田、坂井、奥越、鯖丹、南越、二州、若狭）からそれぞれ２校ずつ、平成28年度および29年度は、さらに１校ずつ追加して合計21の小学校で調査・保全活動に取組みました。

県では、対象校に対し、専門家を各学校の専任アドバイザーとして派遣するとともに、生きもの調査や保全・再生にかかる対象経費を支援しました。また、調査・保全活動を円滑に進めるための調査コーディネーターを派遣しました。

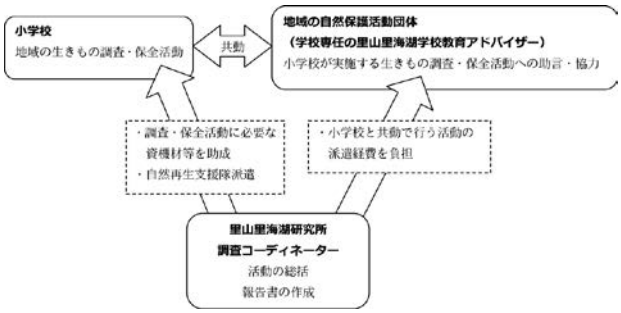

図5-1-3　事業イメージ図

表5-1-4 「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査
実施小学校と主な調査対象

	学校名	フィールドと目標生物
福井・吉田	社西小	校内ビオトープに生息するホタル、メダカなどの水生生物
	吉野小	学校の後ろを流れる荒川に生息するホタルなどの水生生物
	志比小	九頭竜川支流の水生生物
坂井	北潟小	北潟湖の生きものや北潟国有林・波松民有林の動植物
	雄島小	えろもんのふけに生息するオオコオイムシなどの水生生物
	鳴鹿小	学校ビオトープに生息するメダカなどの水生昆虫
奥越	村岡小	保全区域に生育するミチノクフクジュソウ
	有終南小	本願清水イトヨの里に生息するイトヨ
	乾側小	日詰川と支流の水辺にすむ生きもの
鯖丹	河和田小	河和田地区に生息するホタルや野鳥
	宮崎小	自然公園の湿地に生息する希少な水辺の生きもの
	萩野小	重要里地30選に選ばれている周囲のため池等の生きもの
南越	白山小	コウノトリが飛来する水田に生息する水辺の生きもの
	坂口小	地区内の田んぼに生息する水辺の生きもの（コウノトリ等）
	池田小	学校田に生息するメダカなどの生きもの
二州	咸新小	中池見生き物学校田に生息する希少な水辺の生きもの
	美浜中央小	耳川と学校周辺に生息するサケや野鳥など里山の生きもの
	鳥羽小	学校ビオトープの水生生物や周辺水田に生息する赤とんぼ
若狭	国富小	熊野ビオトープや国富地区内の田んぼに生息する生きもの
	本郷小	佐分利川に生息する水辺の生きもの
	青郷小	青葉山に生育する草花や関屋川の生きもの

残そう・伝えよう！身近な生きもの調査　報告書
（平成29年3月発行）

また、各学校の自然環境の保全・再生活動をまとめた報告書を県内の小中学校へ配布することにより、こうした取組みが広まっていくことも期待されています。

（３）環境・エネルギー教育支援事業

【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、ソーラー発電や風力発電を学習する教材の活用やエネルギー教育関連施設の見学を通して、環境･エネルギー教育を進めています。

中学校では、平成24年度より、理科に放射線の性質や利用に関する内容が30年ぶりに復活したことを受け、霧箱や原子力発電モデル実験器等を購入し、様々な実験や観察を通して正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

高等学校では、平成28年度に５校、平成29年度は６校を対象に、学校の特色に応じた環境・エネルギー教育の取組みを支援しました。講演会や見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

※事業対象　平成27年度：小・中学校
平成28年度：小・中・高等学校
平成29年度：小・中・高等学校

表5-1-5　環境・エネルギー教育支援事業取組み状況

	27年度	28年度	29年度
	小・中学校	小･中･高校	小･中･高校
環境・エネルギー教育に関連する施設等の見学	1校	5校	11校
講師による講演や意見交換会での指導および助言	0校	3校	4校
エネルギー教育に関する資材・機材の活用方法の研究	38校	92校	31校